

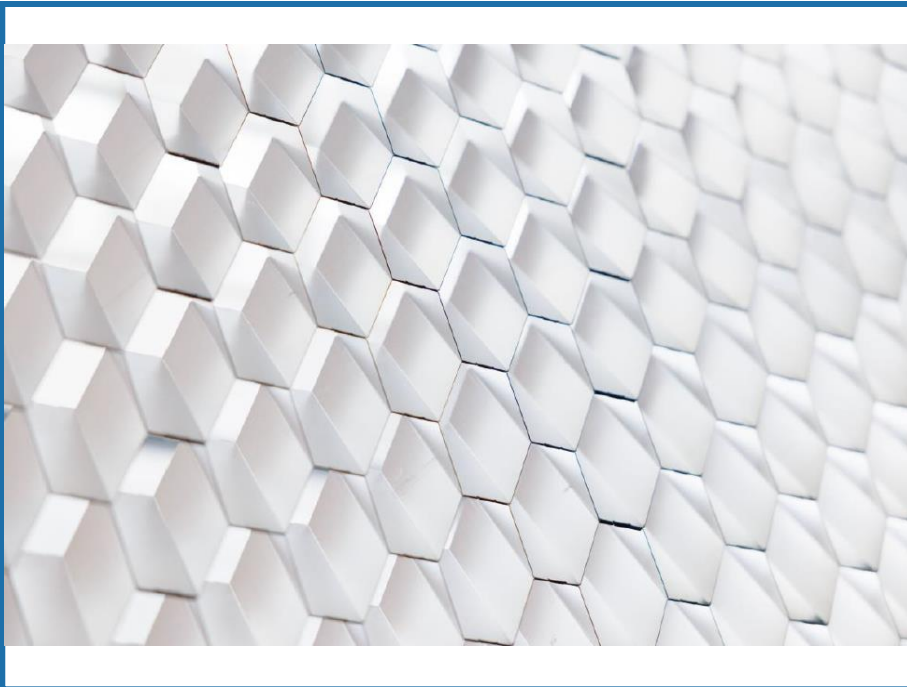
省エネに貢献する新しい屋根『ハニカムパネル』で日本から熱中症をなくす (日栄鋼材株式会社)

取組の概要

省エネルギー化に貢献する新しい屋根「ハニカムパネル」で、熱中症対策の法的義務化に対応しながら新たな事業領域を確立し企業の持続的な成長を実現する。

建設現場の作業所に主に設置・パーゴラと組み合わせることで屋外プールや公園等市内にも設置可能。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

地球温暖化により都市部を中心に酷暑が続き、輻射熱の大量発生により国全体として熱中症対策と省エネルギー対策が喫緊の課題となっているため。

従業員の高齢化にも対応していくため、材料に軽量で加工が可能なアルミ板を採用し、組み立てを容易化（特殊器具を使わずにかしめるだけ）する研究に苦労した。

解決に向けた具体策と成果

銀行のマテリアリティサポートローンで融資を受けた。社会問題に対し前向きに取り組む企業として銀行や行政より関心を寄せられ信頼関係も上昇した。

取組による定量的な効果

ハニカムパネル設置下と日なたで地表面温度が-21.3℃もの差があることが実証された。

取組のポイント

太陽光の反射を利用する独創性の高いハニカム構造・電源不要で地表面温度を大幅に低減する技術の開発。

「地域資源を灯すオガチャッカ ～障がい者と創る循環型社会～」 (株式会社ネットフィールド)

取組の概要

廃口ウソクとおが屑を再利用した着火剤「オガチャッカ」。障害者就労支援と資源循環を目的とした地域発のアップサイクル製品の開発・製造で障がい者が社会に貢献できる仕組みと賃金向上の仕組みをつくった。

取組を始めた動機・課題

以前から就労支援施設へ商品の製造などを依頼してきたが障がい者の作業効率などの問題などもあり結果的に低い賃金になった。また普段障がい者が行う仕事は単純作業で内職と同様な賃金で作業していることから働き甲斐と収入面を改善したかったから。

解決に向けた具体策と成果

おが屑と廃口ウソクを再利用した「オガチャッカ」を開発し、障がい者が製造から販売まで担う仕組みを構築。働きがいと地域循環型の環境配慮型ビジネスを実現しました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組による定量的な効果

年間約200kgの廃口ウソクと約600リットルのおが屑を再資源化。売り上げの85%を施設へ還元。

取組のポイント

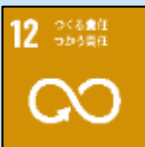
社会課題の解決は“善意”ではなく“仕組み”で。環境資源の循環と障がい者の働きがいを両立する持続可能なモデルへ

「作る技術から、治す技術へ」（有限会社津田製作所）

取組の概要

プリント基板の製造を長年続ける中で、メーカーのサービス終了や老朽化により困っているお客様の声に応え、5年ほど前にメンテナンス事業を立ち上げました。今では売上の半分以上を占める事業となり、廃棄されるはずだった基板を修理・再生することで、資源保護と廃棄物削減に貢献しています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

基板の老朽化により、製品の維持が困難になるお客様の声が増加。実は“作るだけでなく、治す力も持っていた”技術者たちの知見を活かし、メンテナンス事業を立ち上げた。技術者の技術力は十分に備わっていたが、社内体制や設備面に課題があり、補助金などを活用して測定器を導入したり、修理体制の強化に取り組んだ。

解決に向けた具体策と成果

技術者の知見を活かし、精度の高い診断と修理を実現した。廃棄予定だった基板の延命を可能にし、現在ではメンテナンス事業が全社売上の約半分以上を占めている。

取組による定量的な効果

従業員数：2020年4月49名→2025年4月67名【18名増員】
売上：2020年約3.7千万円→2025年約6.3千万円【170%UP】

取組のポイント

“作る技術”から“治す技術”への転換・・・製造中心だった体制を見直し、技術者の力を活かして修理・再生にシフト。

廃棄材を使ったアート活動（NPO法人studioFLAT）

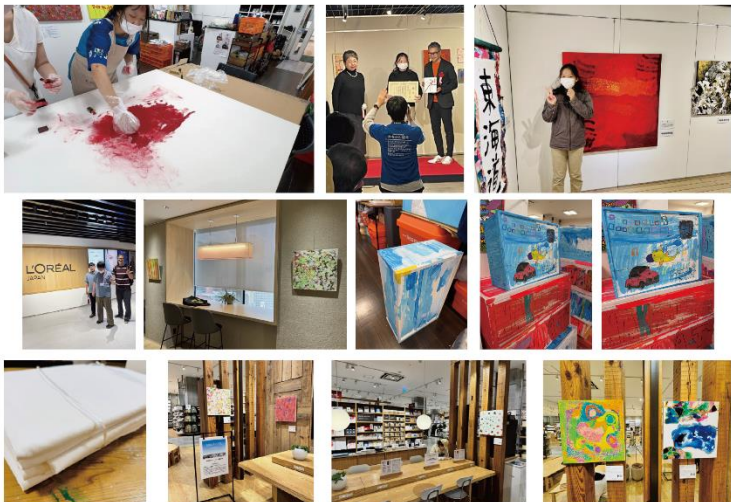
取組の概要

様々な企業と協働して廃棄材をいただき、アート活動へ活かしています。日本ロレアルとは廃棄の化粧品をいただき、画材の一部として活用。大きなキャンバスに口紅を200本以上使用し、制作。その作品が平塚の美術館館長様より賞をいただきました。無印良品とは廃棄プラケースをいただき、ごみの社会課題へ挑戦する【Re:プラケース】を実施。

該当するSDGs目標 (3つまで)



廃材を使ったアート活動



取組を始めた動機・課題

廃棄材を用いることで、障がいのあるアーティストの表現の幅が広がり、これまでにないアート作品が誕生することがきっかけとなり、以後様々な企業から廃棄材をいただきアートを通じて社会課題への取り組みとして活動を継続しています。

解決に向けた具体策と成果

ゴミとして廃棄してしまう、材料を絵の具の一部に活用したり、プラケースなどのプラごみをアートペイントすることで再利用できるものとして、蘇らせる。

取組による定量的な効果

廃棄材を使った作品の販売価格が38000円から42600円と約15%プラスで販売可能になった。

取組のポイント

廃棄材を使ったアート作品は他になく、キャンバスそのものも廃棄シートを使っている。支持体から絵の具まで使用。

請求書の電子化によりペーパーレス・業務効率化を実現！（絃永工業株式会社）

取組の概要

手書き請求書の煩雑な処理を改善するため請求書の電子受領サービスを導入。紙の請求書の整理や転記ミス防止のための確認作業、現場担当者の移動負担を大幅に軽減し、社内の確認・承認業務を完全ペーパーレス化した。

取組を始めた動機・課題

手書きの複写式請求書を使用していたため、郵送された請求書の整理分類やExcelへの転記の際のミスがないかの確認等煩雑な工程が多く、現場に直行直帰になりがちな現場担当が請求書チェックのために出社する必要があった。

解決に向けた具体策と成果

BillOne（請求書受領サービス）を導入したことにより、請求書をデータ化することで転記等の手間がなくなり、また現場担当が出社せずに請求書を確認できるようになった。

取組による定量的な効果

社内での請求書確認・承認業務を100%ペーパーレス化

取組のポイント

業務担当・現場担当がともに負担を軽減できるものを採用した。

該当するSDGs目標 （3つまで）



「ICTで障害者の職域拡大」テーマのプレゼン発表会を実施 (株式会社日本コンピュータコンサルタント)

取組の概要

弊社若手中堅社員による、「障害者の職域拡大に貢献するICT開発」をテーマとしたプレゼンテーション発表会を実施しました。この発表会は、障害者の雇用と社会参加の機会を広げるために、社員一人ひとりが具体的な行動を考える貴重な機会となり、障害者の職域拡大への意識を大きく高める結果となりました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



#	プレゼンテーマ
1	雇用前から採用時までの障害者雇用をサポートするWEBシステム
2	仕事をサポートするスクリーンリーダー
3	「ワークカルテ」の開発および障害者にとって働き易い仕組みの提案
4	バーチャルリアリティ（VR）を利用したコミュニケーション
5	障がい者雇用を支援するマッチングプラットフォームの開発
6	障がい者向けタスク管理ツールの提案
7	日々の状態・状態を発信するNCC Accompanied Support : Nあこ

取組を始めた動機・課題

当社は、働きやすい職場環境の整備とワークライフバランスの実現を推進しています。また、論理的思考力の定着を目的として、毎年入社5年目の社員に対し、特定のテーマと場面に基づいたプレゼンテーション発表会を実施しています。そこで、本年のプレゼンは「障害者の職域拡大に対する当社のICT貢献」をテーマとしました。

解決に向けた具体策と成果

2025年2月にプレゼン発表会を実施。発表者7名、聴講者55名（対面13名、オンライン42名）が参加し、社員の障害者に対する職域拡大への意識向上につながりました。

取組による定量的な効果

弊社介護製品の障害福祉サービス事業所向け機能の拡充や管理部門への障害者雇用（1名雇用追加）を実現しました。

取組のポイント

プレゼンテーション発表会の実施は、経営層だけでなく、社員からも広くアイデアを募るための効果的な手段です。

“もったいない”を“ありがとう”に！ (株式会社コア・エレクトロニックシステム)

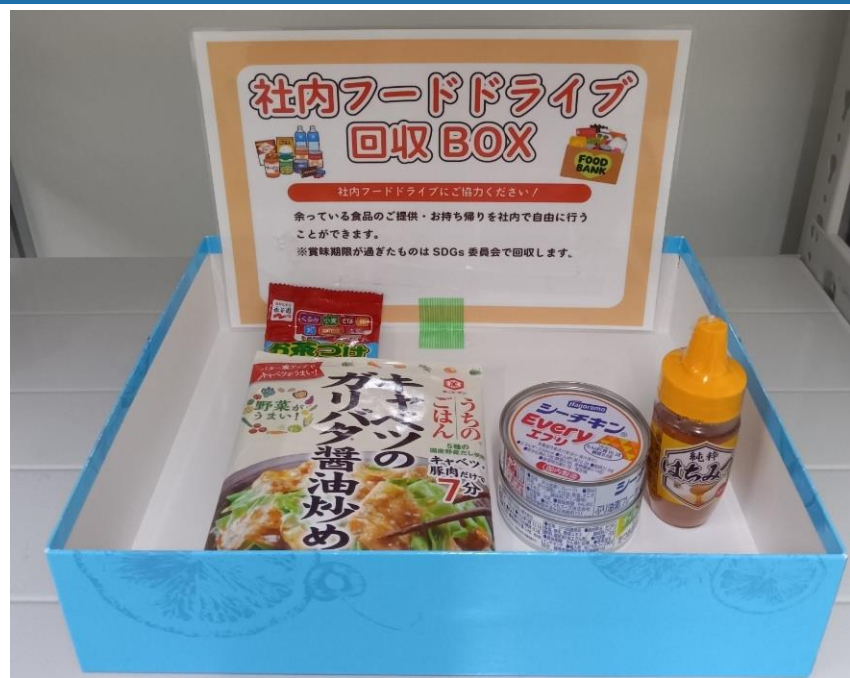
取組の概要

毎年10月の「食品ロス削減月間」に併せて、啓発ポスターの掲示と、フードドライブ活動を実施。今年度から新たに「食品ロス削減アクションチャレンジ」と称し、自ら取り組んだ活動を投稿し、全員で共有。

取組を始めた動機・課題

神奈川県SDGsパートナー企業及び横浜市のY-SDGs認定（Standard）企業として、取組内容の拡充を図る検討の中で決議されたことが切っ掛けです。メイドインつづき参画企業としても、イベントでの併設行事としてフードドライブを提案している。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

食品ロス削減意識が高まるにつれ、家庭でのロス食品が減ってきたので、集荷範囲を拡大。今年度から本社以外の各営業所でも実施している。

取組による定量的な効果

① 社員の社会貢献意識とSDGs理解の向上、② 社内コミュニケーションの促進、③ 地域や取引先との信頼関係の強化

取組のポイント

社長自らクラウド掲示板で事前の呼びかけを実施すると共に運用方法についても提案を実施している。

改良メダカで広げる環境教育（一般社団法人 IMA国際メダカ愛好会）

取組の概要

◆観賞魚である改良メダカを通して、正しい飼育方法と河川などへの放流禁止啓発活動を軸にした環境教育を実施しています。
教育：適正飼育・放流禁止・命の扱いを30分で学ぶ。
環境：飼育できなくなった改良メダカの引き取り
文化：改良メダカ品評会を開催で地域の文化イベントとして開催。
自治会など地域団体と連携し、地域活性化につなげている。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

改良メダカがブームになり、無責任な販売業者、飼育者が多く発生。その結果、河川に改良メダカが目立つようになってきてしまった。江戸時代から親しまれている改良メダカ飼育文化を繋げていくために、正しい知識と環境教育を行う団体を設立。改良メダカの楽しさを伝える場（イベントなど）と合わせて、放流禁止の啓発活動を行っています。

解決に向けた具体策と成果

- ・子ども科学館、小学校、公民館、イベント等でのメダカ教室開催。
- ・当会制作の「めだかのいろは」を無償公開。ハガキ版を無料配布実施中。

取組による定量的な効果

- ・年間約300名に対して啓発活動を実施。SNSが届かない年配者にも実際に説明することで啓発活動が届けている。

取組のポイント

- ・子ども向けに実施すると、同行してくれている親にも届く。
- ・メダカプレゼントを行うことで放流しない「約束」ができる。

やさいクレヨンワークショップ開催 (株式会社大戸屋ホールディングス)

取組の概要

専修大学渡辺ゼミ「ベジコミ班」と連携し、**食品ロス削減と食育を目的とした「やさいクレヨンワークショップ」を開催**しました。廃棄予定の野菜や布を活用し、子どもたちが食品ロスについて楽しく学べる体験型イベントとして実施しました。途中には食品ロスに関するクイズ大会も行い、SDGsへの理解を深めました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

外食産業では、調理時に出る野菜の端材やユニフォーム製作時の布など、見えにくい食品・資源ロスが課題です。子どもたちが食品ロスに関心を持つきっかけとして、楽しく参加できる場をつくりたいと考え、大戸屋のテストキッチンで出る**野菜端材や廃棄布**を活用した体験型ワークショップを企画しました。

解決に向けた具体策と成果

産学連携により、学生のアイデアを活かし**子どもたちが楽しく食品ロスを学べる場を提供できました**。参加者からは「また参加したい!」との声を多数いただきました。

取組による定量的な効果

募集開始直後に定員に達し、14名のお子様とそのご家族が参加、約5kgの野菜端材を再活用しました。

取組のポイント

大学と企業が連携して、子どもが楽しく食品ロスを学べる場を創出する、**協働型SDGs活動**です。

ハガミさん 印刷時に出る端紙や余剰紙を商品に (株式会社クリエイト横浜)

取組の概要

- ・印刷時に発生する端紙、印刷調整紙、余剰紙を製品化
- ・端紙をキャラクター化「ハガミさん」(商標登録済)
- ・紙や印刷に関するSDGs啓発キャラクターとして発信
- ・他社ロゴを入れて“SDGs商品化”できる仕組みを構築

取組を始めた動機・課題

- ・社内SDGs部署立上げを機に、**廃棄用紙の活用**を検討
- ・印刷業務への支障を最小限にすることで、**持続可能な取り組み**とすることを重視
- ・開発コストを抑え、**自社の強み(印刷・企画・デザイン)**を活かす

該当するSDGs目標 (3つまで)

11 暮らしと文化を
守りつづける



12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



解決に向けた具体策と成果

- ・【端紙活用】収集＋パッケージで工作用紙として販売
- ・【調整紙・余剰紙再利用】印刷をかけ工作用紙に再生
- ・【キャラクター展開】「ハガミさん」でブランド化

取組による定量的な効果

- ・「日本グラフィックサービス工業会 作品展」
開発・開拓部門にて**厚生労働大臣賞受賞**

取組のポイント

- ・自社だけでなく、他社も参加できるSDGs商品化システム
- ・教育、自治体、福祉施設との連携による地域貢献

機材のコードレス化とトラックのAT化による作業負担の低減と生産性の向上 (株式会社日装)

取組の概要

機材のコードレス化による作業負担の低減と生産性の向上、ATトラックの導入による事故低減と人員配置の効率化を行い、人手不足社会における高齢者の活用と人員配置の効率化を行うことで、生産性の向上につなげました。

取組を始めた動機・課題

作業員の高齢化に伴い作業負担の低減と安全性の確保が必要となっていた。加えて、ATトラックを運転できない人が増え人員配置の問題があった。限られた資源で多様な人材に働いてもらえる環境づくりと賃金上昇に答えるために生産性の向上を行うことが不可欠であった。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

コードレス機材を挿入することで作業工程が削減され作業負担が低減し効率的な作業が可能となった。トラックのAT化により運転できる作業員が増え人員配置効率が上がった。

取組による定量的な効果

作業負担の低減と共にコードレス化で対応できる現場が増え売上前年比7%UPとなった。

取組のポイント

作業員の負担低減・安全な職場の確立を通じて、だれでも働きやすい職場環境の確立を行った。

ANTONE（アントーン）で障がい者雇用を促進（イマジネーション株式会社）

取組の概要

ANTONE（分散データ入力システム）を開発、導入することにより、「データ入力」業務を、障がい者の方の活躍の場として提供することができるようになりました。自社では障がい者法定雇用率5年以上20%以上を継続、この取り組みを他社に展開していきます。

取組を始めた動機・課題

障がい者の方の活躍の場を広げたい、弊社のデータ入力業務の経験、システム開発のノウハウを活かして誰でもどこでも使えるデータ入力システムを作ろう。そして、データ入力の業務を障がい者の方仕事にして、活躍できる場を作りたいと考えました。

該当するSDGs目標（3つまで）



解決に向けた具体策と成果

ANTONEを自治体や民間企業に導入しデータ入力の機会を拡大します。現在、1自治体に導入し障がい者雇用企業にANTONEのデータ入力業務を自治体から委託しています。

取組による定量的な効果

5～10社の障がい者支援施設へデータ入力業務を委託しています。

取組のポイント

入力帳票を項目ごとに細分化することでデータ入力業務を簡単で、セキュアで、分かり易くすることをしました。

持続可能な経営のための事業継続力強化計画(SDGS視点) (聖和電設株式会社)

取組の概要

地震や風水害などの自然災害に備え、事業を中断することなく継続できる体制を確保するため、事前に**BCP（事業継続計画）**を策定している。

取組を始めた動機・課題

事前にBCP（事業継続計画）を策定することで、**災害などのリスクに備え、非常時でも事業を継続できる体制を整える**ことを目的として取組を開始した。一方で、実際に被災した際に**計画通りに運用できるかどうか**が大きな課題であり、計画の実効性や現場での対応力を高める必要がある。

解決に向けた具体策と成果

緊急時に誰が何を担当するかを事前に決め、混乱を防ぐ。役割分担を明確にして社内に周知し、体制を整えた。

該当するSDGs目標 (3つまで)



(様式第1)

20250217関東第25号
令和7年2月20日

聖和電設株式会社
代表取締役 菅野 修治 殿

関東経済産業局長 佐合 達矢

事業継続力強化計画に係る認定について

令和7年2月13日付けをもって申請のあった事業継続力強化計画については、中小企業等経営強化法第56条第1項の規定に基づき認定する。



取組による定量的な効果

BCP訓練により、発災後 30分以内に従業員の安否確認率 90%以上 を達成。

取組のポイント

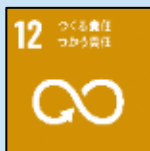
緊急時に誰が何をすることを事前に決め、混乱を防止。

包材の最適化により省資源とコスト削減を実現（エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

焼肉調味料の段ボール内部に入れていた仕切りを廃止し、段ボールサイズを最適化したことにより、重量比で16.7パーセントの段ボール資源を削減した。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

安全性を考慮しすぎたことによる包材の過剰性能（オーバースペック）が見受けられたため、見直しを実施した。

解決に向けた具体策と成果

びんやラベルの破損・損傷を防ぐため、段ボールサイズ変更・テスト輸送等の検証を重ねた。この見直しにより、輸送効率の向上とCO2排出量の削減にもつながった。

取組による定量的な効果

段ボール使用量 16.7%削減（重量比）
包材コスト削減 52.7%

取組のポイント

包材等の使用目的をしっかりと把握し、無駄がないか見直すことで環境配慮やコスト削減にもつながられた。

シニア世代のための料理教室を大学生と共同開催（エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

神奈川県立保健福祉大学の食育サークル「シーラボ☆」と連携。料理教室では、シニア世代に必要なフレイル対策の講義や嚥下体操、学生が考案した「エバラ商品を使ったたんぱく質がたくさん摂れるお手軽レシピ」を紹介。学生自らが調理のコツを伝え、全員で調理・試食をした。弊社もポーション調味料等の商品価値を訴求できた。

該当する
SDGs目標
(3つまで)



取組を始めた動機・課題

「シーラボ☆」メンバーが高齢者の低栄養問題に着目し、レシピ考案だけでなく料理教室を開催することにした。料理教室の運営ノウハウがない学生に、弊社が食育活動で培った経験を共有し、安全で楽しい体験の実現に協力。一番の課題はシニア世代をどう集客するかにあった。

解決に向けた具体策と成果

地域包括支援センターや近隣のスポーツジムの協力を得てポスターを掲示。また、大学施設を利用するシニアの運動サークルに声をかけて参加者を確保した。

取組による定量的な効果

70～80代を中心とした30名の方が参加
多くの方から「また参加したい」との感想をいただけた

取組のポイント

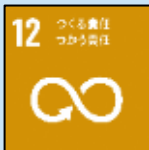
調理や試食の際にも学生が参加者と一緒に参加することで、世代を越えた地域社会の交流機会を創出できた。

印刷の文化を次世代へつなぐー ガリ版印刷体験による資源循環と文化継承 ー (一般社団法人日本グラフィックサービス工業会神奈川県支部)

取組の概要

子どもから大人まで幅広い世代が参加できる「**ガリ版印刷体験**」を通じて、印刷時に発生する**損紙（端紙）**を再利用し、昔ながらの印刷文化に触れる機会を提供しています。
「**資源の循環利用**」と「**教育・文化の継承**」の両立を目指し、SDGsの理念である持続可能な地域社会づくりに貢献しています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



「はるみらい」でガリ版教室の開催 世代間交流の促進



SDGsカードゲーム 組合員SDGsへの理解促進



具体的な成果へのアクション



ビーチクリーン活動
組合員の環境意識の向上



夏休みガリ版体験教室
地域交流とものづくり体験

取組を始めた動機・課題

印刷業界では**会員の高齢化**や**後継者不足**が課題となる中、印刷の魅力を伝える新たな取組として**ガリ版印刷**に着目しました。ガリ版印刷体験を通じて参加者が「ものづくりの面白さ」や「紙資源の大切さ」を学ぶことができ、持続可能な生産と消費（SDGs12）、質の高い教育（SDGs4）などの目標の達成に寄与します。

解決に向けた具体策と成果

- 「はるみらい」や横浜市中区での**ガリ版印刷体験教室実施**。
- 会員の理解促進や意識向上を目的に、**認定セミナーや交流会、ビーチクリーン活動**などを実施。

取組による定量的な効果

- 組織として「**かながわSDGsパートナー**」の**認証**を取得。
- 組合員の**SDGs理解度と活動参加率の向上**。

取組のポイント

- 印刷という専門技術を活かした**社会貢献型SDGs活動**として、他地域への展開可能性を持つ。

「若者世代NPO法人」への教育事業支援活動・開発実践！ (任意団体「シニア・ハマ・カレッジ」運営委員会)

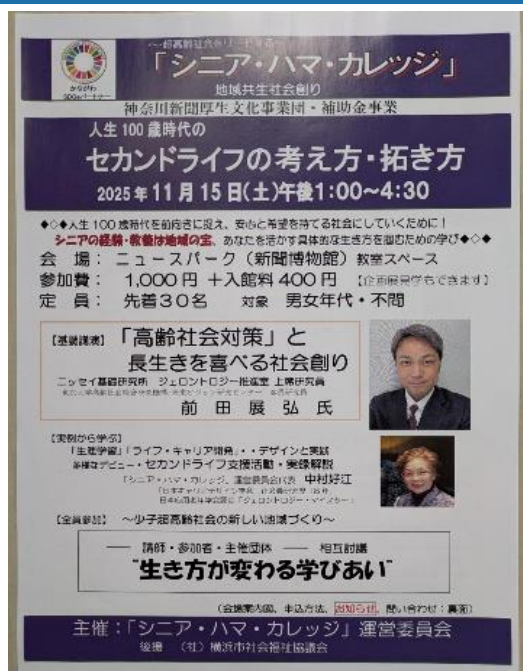
取組の概要

高齢期の生涯活躍を支援する「高齢者福祉」「社会教育」「ジェンダー平等」を柱とし、「**少子超高齢社会の地域共生社会創り**」。リタイア後のセカンドライフ啓発、**若者世代の活動目標への協力、コロナ禍後の「社会教育手法による新時代創り」**。SDG s パートナー団体との相互協力。

取組を始めた動機・課題

国家資格、学会認定資格を有する代表が発起人。超高齢社会の生涯活躍支援を目的・平成22年設立。延べ1,000人超の受講者・人材輩出（コロナ前迄）
課題：公的支援制度の後退。地域の様相激変。若者世代・教育分野NPO法人の事業支援・つながりを開発中。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

補助金獲得「公開講座開催」。高齢者の力を若者世代支援に活かす新戦略・複数成功！ 教育活動系NPO 2 法人を、SDG s パートナー企業への就職相談・出前授業実現進展。

取組による定量的な効果

一般社会の教育活動NPO 2 団体。4 0代社長個人1。SDG s パートナー企業5 社。若者インターン、スタッフ活用。

取組のポイント

代表の国家資格・専門業の実現力を元に、良質な活動実績を持つ若者NPO法人と、良質なSDG s パートナーをつなぐ。

スーパー分別プロジェクト南足柄ペットボトルキャップ分別プロジェクトへ参加 (株式会社デコリア)

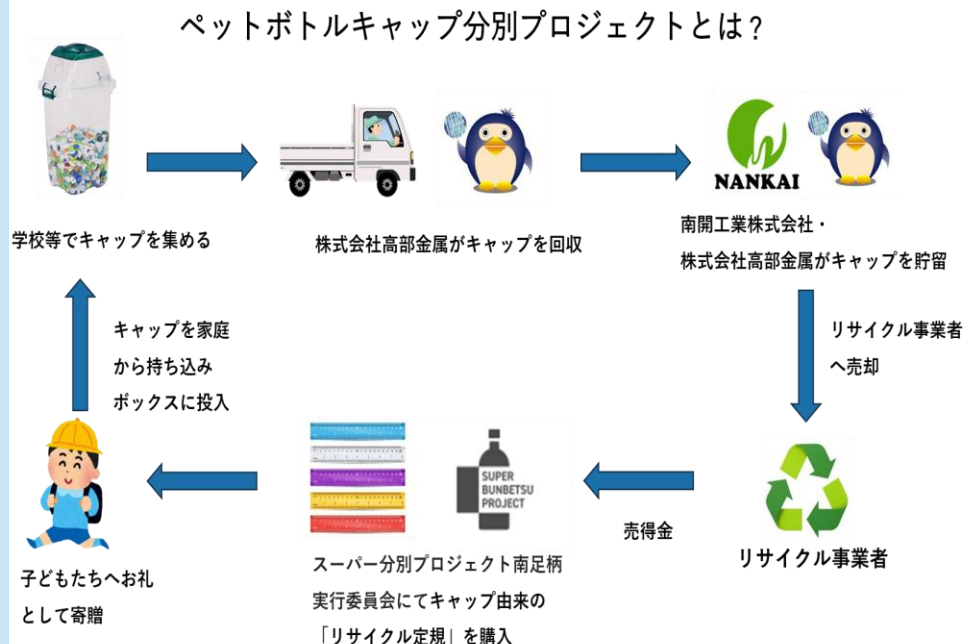
取組の概要

南足柄市に関係の深い有志企業が立ち上げた「スーパー分別プロジェクト南足柄」という団体がある。
同団体では南足柄市民のカーボンニュートラル社会実現に向けた環境教育や廃棄物分別推進等の啓発活動を行っており、その一環であるペットボトルキャップ分別プロジェクトに参加。

取組を始めた動機・課題

当社がマテリアリティとして掲げている「**全員参加**」「**地域密着**」「**子どもに未来を**」全てに合致するSDGs活動の選定が課題でありました。企業間連携を進めている株式会社高部金属より本プロジェクトをご紹介頂き、内容が当社の全マテリアリティを体現できる最適な取組であると判断し、取組を開始しました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

ペットボトルキャップ回収量向上のための施策

- ・日々使用する各工程現場や食堂に回収ボックスを設置
- ・朝礼での周知で関心向上。家庭からの持ち込みも増加。

取組による定量的な効果

- ・現時点の今年度実績でペットボトルキャップ**15.7kg**回収。
- ・SDGsの取組が1つ増え、社員の社会貢献意識が向上した。

取組のポイント

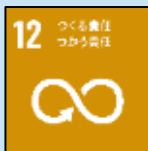
- ・マテリアリティ(重要課題)の設定
- ・設定したマテリアリティに合致している取組であるか。

剪定ゴミをゴミにしない！バイオネストで誰でもSDGsが自分事になる。 (アトピッコハウス株式会社)

取組の概要

アトピッコハウスでは、剪定枝や落ち葉などの植物性廃棄物を再利用し、自然と共生する堆肥置き場「バイオネスト」を継続的に整備・推進しています。公園などでの活用が多いですが、小さなスペースでも実施可能な方法で、約5年、敷地内から剪定ゴミを出さないゼロエミッションが実現できています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

剪定ゴミの処分費として3億円が計上されている鎌倉市。天然由来の建材メーカーとして、アトピッコハウスは「廃棄物を出さない環境管理」を模索する中で、剪定ゴミの循環に着目しました。「ごみ」とされている剪定ゴミを“資源”に変えることができれば、環境負荷を大幅に減らせると考え「バイオネスト」づくりが始まりました。

解決に向けた具体策と成果

剪定枝や落ち葉を、微生物の力で社屋内で分解・堆肥化。自然素材を扱う同社スタッフによる環境ワークショップを開催し身近なSDGsとして啓蒙活動を実施。

取組による定量的な効果

剪定廃棄物の処理コストを100%削減。ワークショップを通じて地域にSDGsな剪定ゴミ活用を啓蒙。

取組のポイント

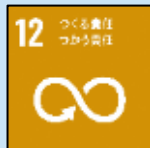
「ごみ」を“資源”に変える自然循環の仕組みを、誰でも実践できる形で可視化。

温暖化を止める頑張らない庭づくり「ゆるっと野草ずぼらガーデニング」 (アトピッコハウス株式会社)

取組の概要

「ゆるっと野草ずぼらガーデニング」は、手間をかけずに自然と共生する庭づくりを提案する取り組みです。除草剤や化学肥料を使わず、そこに自生する野草を“仲間”として受け入れることで、自然のバランスを壊さずに美しい庭を維持します。

該当するSDGs目標 (3つまで)



抜かずにカットが"ずぼら"の肝



取組を始めた動機・課題

庭ではなくコンクリートを敷き詰める新築が増えています。コロナ禍を経て「家を楽しむ」というニーズが高まったものの、結果として雑草対策に追われるケースが多くみられます。「雑草を排除する」のではなく「野草と共生する」新しい暮らし方を提案するため、この取り組みをスタートしました。

解決に向けた具体策と成果

雑草を抜かずに刈り込み・間引き・踏みしめをわかりやすくガイド化。SNSやワークショップを通じて、「ずぼらでもできる自然庭」づくりのノウハウを発信。

取組による定量的な効果

地元の昆虫・鳥類の来訪数が増加し、生態系の回復が確認された。参加ワークショップ累計参加者数：延べ約100名。

取組のポイント

“手を抜くこと”を前向きに捉え、**自然に任せる庭づくり**を啓発。

小さな昆虫が大きな実りをもたらす「インセクトホテル」を広めよう (アトピッコハウス株式会社)

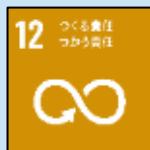
取組の概要

ヨーロッパでは一般的な「インセクトホテル」は、昆虫や小さな節足動物の**越冬や繁殖を支援する人工巣箱**。アトピッコハウスでは、**生物多様性の保全**を目的に続けています。日本の住宅地でも自然と共生できる環境づくりを推進できる小さな生態系”を意図してつくりあげます。

取組を始めた動機・課題

ゼロウェイストを目指しているアトピッコハウスの「ゆるっと野草ずぼらガーデニング」では、剪定した枝の有効利用としてスタート。「**家をつくる**」だけでなく「**生き物と共に暮らす**」**場をつくること**のbabyステップとしてインセクトホテル設置を始めました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

植物の受粉を担うハナバチ類の来訪が増加。「昆虫は暮らしのパートナー」という発想で、嫌われがちな生き物との共生を提案。

取組による定量的な効果

環境学習・ワークショップ参加者：延べ100名以上。

取組のポイント

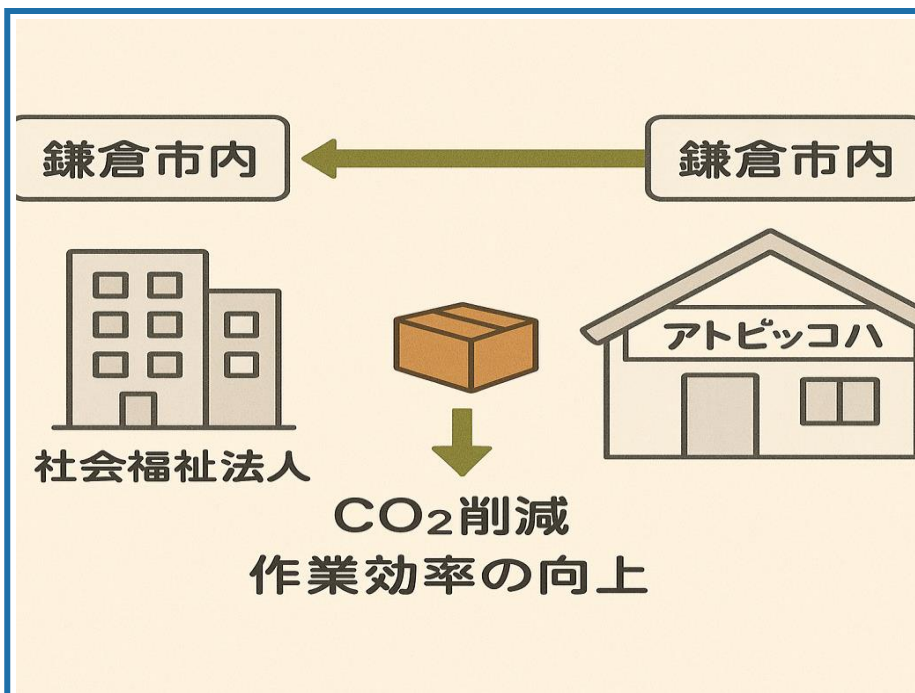
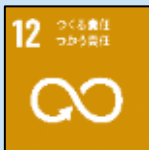
剪定ゴミや庭から出た石、割れた植木鉢を活用。庭にある材料で、誰でも豊かな庭を目指すことができる。

零細企業だからできる社会福祉法人との協働による地域支援活動 (アトピッコハウス株式会社)

取組の概要

地域の社会福祉法人と連携し、自社製品の**サンプルづくり**を継続的に委託。製品づくりの一部を地域社会と分かち合うことで、障がいのある方や就労支援を必要とする方々の社会参加と経済的自立を支えることを目的としています。単なる外注ではなく、“地域と共につくる企業活動”として、持続的な協働体制を築いています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

アトピッコハウス製品は、少量多品種が多く、繁忙期には人手が不足するという課題がありました。この課題解決と地域の雇用を支援する方法を模索する中で、地元の社会福祉法人に作業を依頼。「企業の業務」と「福祉の現場」をつなぐ取り組みとして、双方にメリットをもたらしています。

解決に向けた具体策と成果

社会福祉法人にサンプルづくり、封入作業、チラシの投函などを委託。コストが1/10に軽減できた。

取組による定量的な効果

委託作業量：年間約5千件（サンプル作成、封入・チラシ投函など）。

取組のポイント

“協働パートナー”として信頼関係を築き、社員も社会貢献の実感が持て、社内意識の向上にもつながった。

「だれもが楽しめる社会へ」

— 病気や障がいのある子どもたちに体験の輪を広げる — (NPO法人AYA)

取組の概要

「病気や障がいがあることを理由に、文化的・社会的体験をあきらめなくてよい社会の実現」を目指し、スポーツ・芸術・文化の各領域で、子どもたちとご家族に向けた体験型イベントを開催。映画上映会、スポーツ観戦会、音楽鑑賞会、プラネタリウム鑑賞会など、誰もが参加できるインクルーシブな社会づくりを推進している。

取組を始めた動機・課題

病気や障がいを抱える子どもたちとその家族の体験機会は構造的に限られている。公共施設やイベント会場の環境面や配慮の不足、理解不足から、「体験の格差」という社会的不平等が生じている。この不平等を解消し、「病気や障がいを理由に体験をあきらめなくてよい社会の実現」を目的として、本取組を開始。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

医療的ケアへの対応、家族全員での参加設計、専門職の帯同、安全・安心への配慮といったAYA独自の体制を組み込み、誰もが安心して楽しめる「体験機会」を創出。

取組による定量的な効果

- ・ 来場者数：2023年度延べ 312人 → 2024年度延べ 1,334人
- ・ ボランティア数：2023年度 延べ61人 → 2024年度 延べ227人

取組のポイント

神奈川県・市・教育委員会の後援のもと、企業・ボランティアとの連携により、持続可能な共創モデルを構築。

職場において「すべての人に尊厳を」（株式会社AESCジャパン）

取組の概要

国連は「ビジネスと人権に関する指導原則」で企業に対し、人権尊重の責任と救済へのアクセスを提唱している。当社は2007年神奈川での創業以来、EV「日産LEAF」をはじめとする車載用バッテリーの製造メーカーである。当社は2023年に内部通報制度を導入。従業員が社内の不正行為を内部通報窓口に通報し、調査、是正につなげる仕組みを整備した。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

政府が推進する「改正公益通報者保護法」を遵守し、ハラスメントの撲滅やコンプライアンス向上を通じて、社内の風通しを良くする。ステークホルダーである従業員が秘匿性が担保された状態で通報できることで、安心して働ける環境を整備し、働きがいのある人間らしい雇用＝ディーセントワークを推進する。

解決に向けた具体策と成果

内部通報規定の整備、社内通報対応従事者の設置。独立した第三者通報外部サービスを利用。ハラスメント防止策として新任管理職を対象にコンプライアンス研修・ハラスメント防止研修を実施。

取組による定量的な効果

2024年度に約**1.6%**の従業員に内部通報制度が利用された。
※1.0%以上利用があれば制度に信頼性があるとされている

取組のポイント

従業員が人種、性別、障がいなどに基づく差別や不当な扱いを受けず、尊重される職場づくりを目指している。

持続可能な未来に挑戦し続ける（株式会社AESCジャパン）

取組の概要

国内温室効果ガス排出量のうち産業部門が占める割合は37%を占める*。当社は、2007年に神奈川で創業。神奈川県座間市、相模原市に製造工場を構えている。2010年以降15年以上にわたり、「日産LEAF」をはじめとするEVに車載用バッテリーを供給している。

*2023年度 環境省 温室効果ガス排出量及び吸収量について

該当するSDGs目標（3つまで）



取組を始めた動機・課題

当社は2022年 Scope 1（直接排出）および、Scope 2（間接排出）において**カーボンニュートラル（CO₂排出量を実質ゼロにすること）を達成**。2023年にはグローバルで**再生可能エネルギーの使用率が97%へ到達**（非化石由来エネルギー証書、カーボンクレジットを含む）。2025年に**RE100（100% Renewable Electricity）国際的なイニシアチブに加盟**。

解決に向けた具体策と成果

当社はグローバルで**再エネ導入推進、生産現場での徹底的な省エネ**を実施。太陽光、風力、水力発電由来の非化石証書やクレジットを購入し再エネ市場発展に寄与。

取組による定量的な効果

横浜本社、神奈川県2工場で排出された**約47,048.24トン＝杉の木 約213万本分相当のCO₂排出量をオフセット**。

取組のポイント

気候危機をくいとめ「**子供たちに未来へのバトンを渡したい**」という社員の熱い思いから全社一丸となって活動推進。

気候変動マネジメントーネットゼロへの移行（株式会社AESCジャパン）

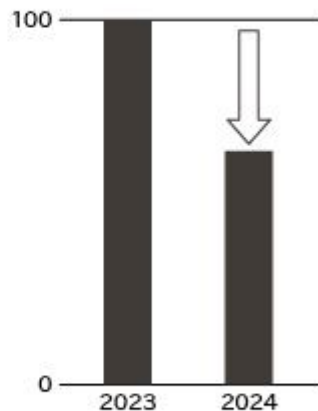
取組の概要

「ISO 14068-1 気候変動マネジメントーネットゼロ（排出量 差し引きゼロ）への移行」、「ISO 14064-3 温室効果ガスに関する主張の妥当性検証」認証取得の取り組み。当社は2007年に神奈川で創業し、座間市と相模原市に製造工場を構えている。2010年以降15年以上にわたり、「日産LEAF」をはじめとするEVに車載用バッテリーを供給している。

該当するSDGs目標 (3つまで)



ISO認証を取得



炭素排出強度36%減

取組を始めた動機・課題

近年、異常気象が頻発している。企業の温暖化防止の更なる取り組みが叫ばれる中、当社グループの「持続可能な未来に向けて挑戦し続ける」というミッションを達成する方策として、**2021年からカーボンニュートラル（CO₂排出量を実質ゼロにすること）**の全社活動を進めてきており、今回、ISO 14068-1/ISO 14064-3の認証取得に挑戦した。

解決に向けた具体策と成果

2024年 CO₂排出量実質ゼロを達成したことを証明するためのルールであるISO 14068-1認証取得および、正しい排出量計算、測定に関するルールであるISO 14064-3認証を取得。

取組による定量的な効果

省エネ法 平均1%/年が努力義務に対し2024年にグローバルで単位製品MWhあたりの**炭素排出強度を前年比で36%削減。**

取組のポイント

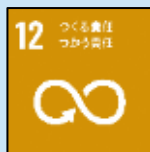
CO₂排出量低減の活動は「見える化なくして削減なし」を掲げ、全社一丸となって活動を推進している。

製品の温室効果ガス排出量算定・低減の取り組み（株式会社AESCジャパン）

取組の概要

カーボンフットプリント（CFP）＝製品ライフサイクル全体（原材料調達から廃棄・リサイクルまで）で排出される温室効果ガス（GHG）排出量算定・低減の取り組み。当社は2007年に神奈川で創業し、座間市と相模原市に製造工場を構えている。2010年以降15年以上にわたり、「日産LEAF」をはじめとするEVに車載用バッテリーを供給している。

該当するSDGs目標 （3つまで）



協同取引先

50社

カーボンフットプリント
算定カバー率

100%



ISO認証を取得

取組を始めた動機・課題

近年、地球温暖化により、豪雨災害が国内でも頻発している。2018年には、西日本豪雨で304名の死者・行方不明者を出している。日本の製造業からのGHG排出量は、国内総排出量の約3分の1を占めており、製造業の排出量低減への社会的責任は重い。

解決に向けた具体策と成果

GHGプロトコル（GHG算定国際基準）を用いて当社製品のCFP算定。環境負荷が最も大きいホットスポットを特定。上流取引先50社とCFP低減に関する協議実施。

取組による定量的な効果

100% カーボンフットプリント算定カバー率を達成。
ISO 14040/44 ライフサイクルアセスメント 認証取得。

取組のポイント

当社は「持続可能な未来に向け挑戦し続ける」という企業ミッションのもと、持続可能な社会の実現に貢献していく。

夢と希望のOn Line Event 国際交流を児童養護施設で開催（日本ムーグ株式会社）

取組の概要

“地域・社会への貢献”の一環として、7/25に神奈川県大磯町のエリザベス・サンダース・ホームにて、施設の子どもたちを対象に**海外（マレーシア）とオンラインで繋ぎ、“時差を感じ”**現地ガイドと一緒に実際にマレーシアの果樹園に生息している珍しい昆虫など採取しながら、空間を越えて**リアルな昆虫採取の疑似体験**していただきました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

施設長から社会的養護となった子どもたちは、卒園後になかなか社会に馴染めず苦労しているという課題を伺いました。その理由として、社会（海外含む）の事を知る機会が少なく順応する事が難しい事をあげておりました。その為、施設にいらながらも**施設外の世界に触れる機会を提供できないかと弊社内で検討いたしました。**

解決に向けた具体策と成果

日本で海外体験できるコンテンツが強みの（株）Mimmy様と連携しオンラインイベントを開催しました。施設長から期待以上に多くの子どもが参加してくれたと評価いただきました。

取組による定量的な効果

実施後のアンケート 26名の結果 94%が満足したと回答。

取組のポイント

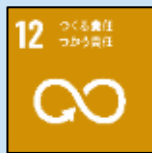
エリザベス・サンダース・ホームとMimmy様を繋げることで、子どもたちと**“世界”を繋げるアクション**を実現できました。

できることから無理なく楽しく、みんなで取り組む！ 事業を通した環境貢献アクション&子育て両立サポート（原貿易株式会社）

取組の概要

全社でSDGsに取り組む風土醸成のため制定したパーパス「人と環境に優しい価値ある情報と商品を提供する」の下、プラスチック部分などを再利用して作られるリユーストナーカートリッジの使用・普及促進を通した環境貢献と啓発（ゴール12・13）や、仕事と育児/介護/通院などの両立を支える社内制度の整備（ゴール8）に取り組んでいます。

該当するSDGs目標 （3つまで）



取組を始めた動機・課題

リユーストナー事業を通して環境貢献に取り組む中で、中小企業もできる取り組みとして自社事例なども他社にシェアするようになった。その後、代表・江守の子育て経験を機に子ども用品事業が始まり、仕事と子育ての両立を応援する風土醸成を図り、コロナ渦で”お互い様”の精神が根付くとともに対象を介護や通院にまで拡大させた。

解決に向けた具体策と成果

風土を可視化するためにパーパスを制定し、事業とSDGsの取り組みに一貫性を持たせた。子育てとの両立のための社内制度を設置した（時間休や前倒し有休付与など）。

取組による定量的な効果

弊社のSDGsに関わる取り組みをホームページや取材記事などで原貿易を知り、入社に至った採用人数：3名

取組のポイント

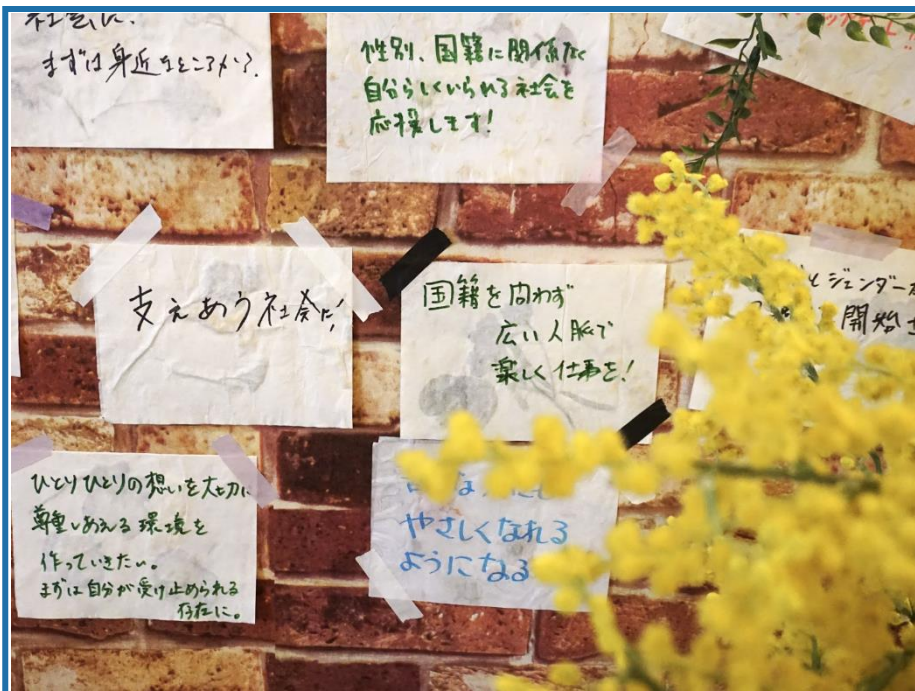
- ・ “できることから無理なく楽しく”を合言葉に全社でやる
- ・ 事業×SDGsも、仕事×子育ても、社内風土醸成がカギ

国際デーを通して社会課題を自分事に（株式会社An-Nahal）

取組の概要

数ある中から国際女性デーに焦点をあて、グローバル視点でジェンダー平等に向けたイベントを、産官学連携で毎年開催している。象徴のミモザや、**ロスフラワーを用いたサステナブルな装飾**等T&G社の多大な協力で実現。「自分だったらどう行動するか」を想像して**社会課題を考えるきっかけをつくり**、率先して地域社会に働きかけている。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

私たちは「多様な人材が協働する社会をつくる」というビジョンを掲げ、一人ひとりの個性が力として発揮できる環境づくりを目指している。この理念のもと**国際デーに合わせた啓蒙活動**の実施を決定。まずは認知度の高い国際女性デーを起点に地域社会と共に関心を高める機会を創出すべく、イベント形式で毎年実施することとした。

解決に向けた具体策と成果

2023年度は県内企業による事例共有と対話を通じ、DEI意識の醸成を図る。2024年度は関係者の参画を拡大し、国内外の多様な事例をもとに参加者同士のつながりを強化。

取組による定量的な効果

同イベントは2023年度に初開催し、参加者数およそ50名。2024年度参加者数およそ90名。需要に応じて規模を更新。

取組のポイント

気になる国際デーを見つけ「飾る・話す・気づく」。これは各々に合う形式で実施できる。日常に小さなきっかけを。

暖かさを無駄にしない防寒術（株式会社エニマス）

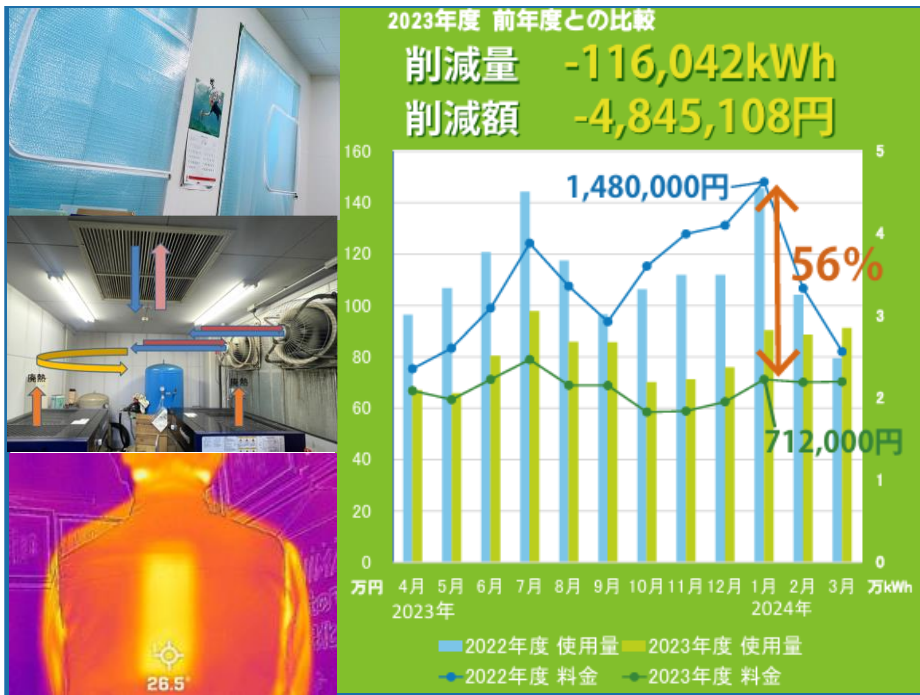
取組の概要

事業所内の設備ごとの電気使用量が見える化する電流計とアプリを作った。無駄を見つけたら「つけたら消す」を徹底して待機電力や暖機運転を削減、冬場は暖房を抑え、1月は**前年度比-56%の電気代削減を達成した。**

取組を始めた動機・課題

電気代高騰もあり、夏と冬の電気使用量がとても多いことがわかった。自社電流計によるとそれは冷暖房の使用量が4割を超えていたからだった。冷暖房費を抑えるべく、冬にした対策は暖かさを逃がさない対策だった。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

暖房は最低限稼働にし、コンプレッサー排気(暖気)を循環、人だけ温める電熱ベスト着用、エアキャップで内窓を作り、基本料金から電気代を落とすことに成功した。

取組による定量的な効果

電気代1,480,000円が翌年同月は712,000円まで抑えられた。年間で削減量-116,042kWh、削減額-4,845,108円達成。

取組のポイント

大型機械の待機電力が何円、一日の暖房料金が何円と社内に具体的金額を通知することで、全員の意識改革ができた。

商工会議所・会報誌に「未来をつくるSDGs講座」を連載 (株式会社アレックスプランニング)

取組の概要

SDGsが認知されていない頃から活動を行っていた。中小企業の皆さまより「何から始めたらよいのか分からない」という声が多かったことから、商工会議所・広報誌に「未来をつくるSDGs講座」というコラム枠をいただいた。SDGs取組事例や最新動向の情報を発信した。同時に中小企業・市民の皆さま向けのにSDGsゲーム体験会も開催した。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

SDGsが認知されていない頃から推進活動を実施しており、各種ファシリテータ資格も取得していた。県内の中小企業の皆さまから「SDGsって何?」「何から始めればよいか分からない」、「大企業が取り組むものでしょう」というような声を聞いており、中小企業のSDGs推進に危機感を持っていた。

解決に向けた具体策と成果

商工会議所・会報誌に「未来をつくるSDGs講座」というコラム枠をいただき、具体的な取り組み事例や最新の動向を発信することで認知度向上、取り組み推進に貢献した。

取組による定量的な効果

広報誌掲載は、令和3年5月号～継続中掲載（毎月1回発行）
「かながわ&あつぎSDGsパートナー」登録メンバ拡大

取組のポイント

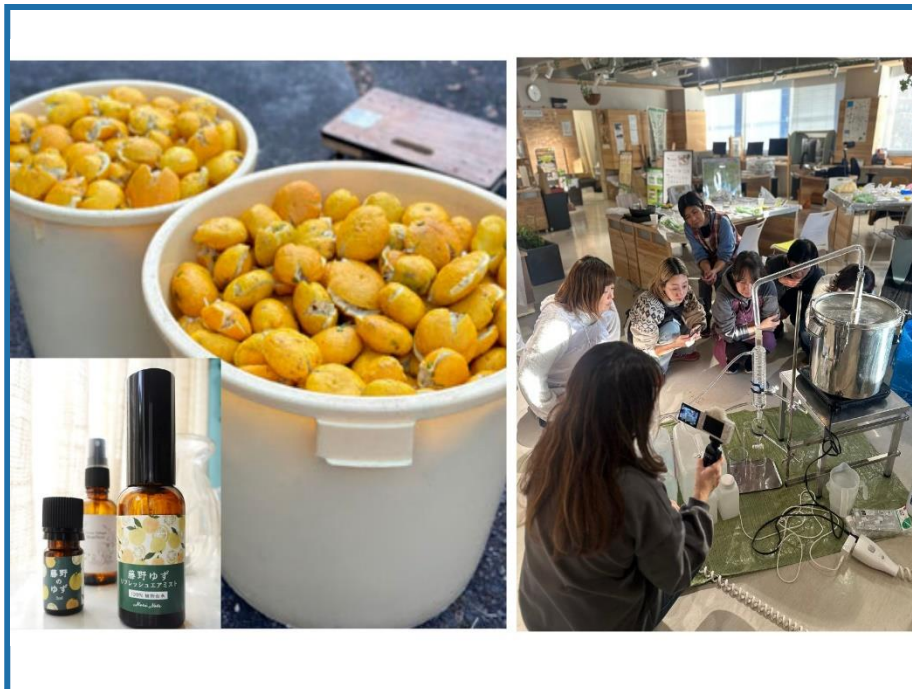
具体的な取組事例や最新動向を簡潔に400字程度で表現。長期に渡り情報発信を継続、SDGsゲーム体験会を併用。

搾汁後ゆず果皮を生かした 香りのアップサイクルと香育の取組（アロマスクールMoriNote）

取組の概要

果汁搾汁後に通常は廃棄される**ゆず果皮（副産物）**を活用し、蒸留によって精油・芳香蒸留水へ**アップサイクル**するものです。地域から果皮を引き取り、蒸留見学や香りの体験を通じて、自然の恵みや資源の背景を学ぶ“香育的な学び”を提供しています。食品加工の副産物の価値を高め、地域資源を生かす新しい香りの取組を進めています。

該当する SDGs目標 （3つまで）



取組を始めた動機・課題

ゆずの果汁は需要がある一方、搾汁後の**果皮は大量に発生しほとんど使われていない**現状がありました。香りの宝庫である果皮が廃棄されてしまうことに課題を感じ、「香りの視点からこの資源を生かしたい」と考えました。また、地域の自然・植物・資源の循環を学べる機会をつくりたい想いもあり、取組を開始しました。

解決に向けた具体策と成果

食品加工で生じた搾汁後果皮を回収し、蒸留によって**香りの素材として再生**しました。蒸留見学や香りの体験を通じ、参加者が植物の仕組みや資源活用を学ぶ場を提供。

取組による定量的な効果

約300kgのゆずから搾汁後果皮30kgを再資源化し、精油600mL（80本）を採油・完売。蒸留会に30名が参加した。

取組のポイント

本来廃棄される搾汁後の果皮を活用し、香り体験を通じて植物や環境への理解を育む学びを生み出している点。

地域防災活動「コンロから目をハナさない」（さがみ農業協同組合）

取組の概要

- 寒川町の大型直売所において、茅ヶ崎市消防本部の協力を得て「コンロから目をハナさない」と題し、火災予防を呼び掛けるイベントを開催した。火災の原因となるコンロから目を「離（花）さない」にちなんで、農家から提供いただいた花の苗を配布し、『花のまち寒川』において、地域農業理解と火災予防をPRした。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

動機 農業を含めた地域社会の課題の解決を目指すイベントの第2弾。火災予防の啓発とともに、地域の消防団員の減少などの課題を見聞きし、地域のためにアクションを起こさなければいけないと実感したため。

課題 ①平日開催の為、より広範囲にPRする必要がある。

②来店客年齢層にPRする必要がある。

解決に向けた具体策と成果

出荷農家に直接説明。配布する花の手配のため数カ月前から協力を依頼。消防本部やJAのSNSの活用、農業体験で関わりのあった地域の保育所等へPRを行い課題の解決に努めた。

取組による定量的な効果

280鉢の花苗を配り、地域農業理解と火災予防をPRするとともに、煙体験も実施。相乗効果を高める工夫もした。

取組のポイント

他団体と連携し、広く活動を周知できた。今後はお互いの良いところを補い、ともにSDGsのゴールを目指したい。

お札（日本銀行券）に関する校外学習支援（出張授業・特別工場見学）の実施 （独立行政法人国立印刷局小田原工場）

取組の概要

児童・学生を対象に、私たちの暮らしを支えるお札がどのようにできているのかを学んでもらうために、**校外学習支援（出張授業や特別工場見学）**を行っています。

県内・県外問わず、たくさんの児童・学生へお札の製造工程や、**お札に取り入れられたユニバーサルデザイン**等について学んでももらいました。

該当するSDGs目標 （3つまで）



出張授業（放課後児童クラブ）



特別工場見学

取組を始めた動機・課題

印刷局の取組を広く知ってもらうとともに、**これからの未来を担う子供たちに向けて**、令和6年度に発行された新しいお札のことやユニバーサルデザインについて楽しく学べる機会を提供し、**様々なことに興味を持つきっかけ**を作りたいと思っています。

解決に向けた具体策と成果

印刷局のHPを活用した募集に加え、近隣の小学校を訪問し、校外学習の案内を行いました。また、(株)明日葉様と連携して放課後児童クラブへの出張授業を実施しています。

取組による定量的な効果

令和6年度～令和7年度（11/1時点）で、出張授業11回、特別工場見学18回、**延べ1,100人程度の子供たちに実施。**

取組のポイント

お札を実際に触ってもらったり、お札〇×クイズを行ったりして、子供たちに楽しみながら学んでももらいました。

地域みんなで未病対策！（医療法人社団カワサキ）

取組の概要

神奈川県未病改善対策を地域に広げるため、住民向けにフレイル予防や成人病予防イベントを年に4回開催。従業員には管理栄養士による副菜を毎日提供し、健康で働ける環境を整えるなど、質の高い医療提供を実現し、皆が安心安全で暮らせる街づくりを目指している。

取組を始めた動機・課題

県の進める未病対策について地域の認知度が低く、自ら健康づくりへ踏み出すきっかけが少なかった。医療従事者の知識やスキルを使い、普及の機会を増やす必要があると考え、そのためにはまず従業員が住民の手本となれるよう、従業員の健康維持も課題だった。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

従業員である歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・柔道整復師がフレイル予防・成人病予防などの未病イベントを開催、住民に未病知識が浸透し、健康意識が向上した。

取組による定量的な効果

定例イベント毎月2回、参加者平均70名/毎月。
特別イベント年4回、参加者平均23名/1回。

取組のポイント

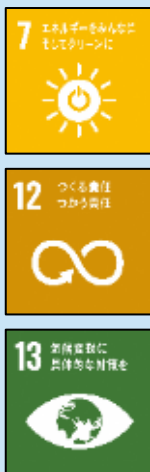
未病対策を地域レベルに落とし込み、住民の行動変容につなげた。同時に従業員の健康維持とスキル向上を実現。

食品ごみを電気だけでなく肥料にも！（株）バイオフードリサイクル

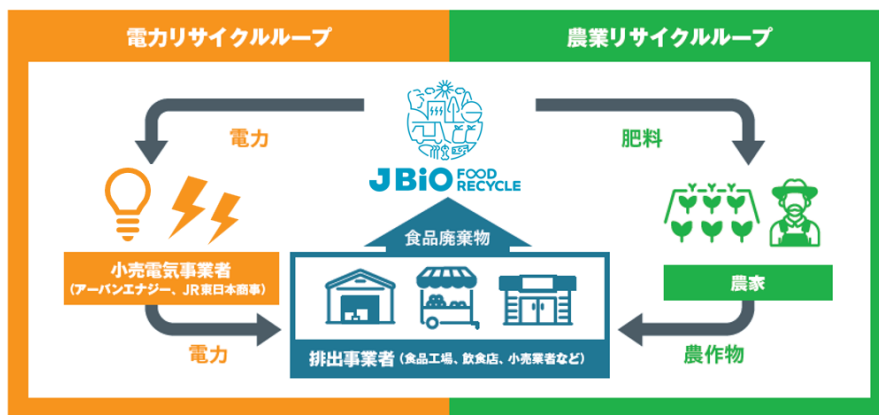
取組の概要

食品廃棄物を微生物の力（メタン発酵）でバイオガスを生み出し、発電に利用し再エネ電気を創出します。さらに発酵残渣は**肥料**になり、農地で利用されています。排出事業者**に肥料**でできた作物を提供する『**農業リサイクルループ**』を通じて、環境負荷の低減、循環型社会に貢献できます。

該当するSDGs目標 (3つまで)



■ 農業リサイクルループ（図右）



食品廃棄物を電気・肥料にリサイクルする『ダブルリサイクルループ』
できた肥料は食品由来のため、安全です。

取組を始めた動機・課題

発酵残渣は、焼却すれば多くのCO₂を排出する「ごみ」ですが、肥料成分が豊富に含まれた「資源」でもあります。発酵残渣を肥料として活用することで、CO₂削減と農家の栽培コスト削減を実現し、**環境と農業の両面に貢献**できると考え、肥料化を始めました。

解決に向けた具体策と成果

- ・農業ループ累計6件実現
(リンク) お米の「農業リサイクルループ」の実現
- ・リサイクルループの構築により**地域循環共生圏**を創造

取組による定量的な効果

- ・累計肥料提供量5,300 t (2022～2024年度)
- ・CO₂排出量削減効果 累計3,020 t (肥料化前の焼却と比較)

取組のポイント

排出事業者、農家、消費者、すべてが『農業リサイクルループ』の重要な一員です。

地域の未来を担う人財育成！「職業体験」の受入れを実施（京浜電設株式会社）

取組の概要

地域の中学生を対象に「電気工事の仕事を知る職業体験」を継続的に実施。現場見学や配線体験を通じて、電気工事の社会的役割やものづくりの楽しさを伝え、将来のキャリア選択を支援しています。これにより、地域人材の育成と電気工事業界の担い手不足解消の一助となることを目指しています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

電気工事業界（建設業界）は人材不足が課題で、施工管理中心の当社は女性も活躍していますが、いまだ「3K」のイメージが根強く若年層の入職者の獲得が難しい状況です。将来の入職候補者を増やすため、また、中学生のキャリア意識や将来の職業選択の幅を広げるため、地域の学校と連携した取り組みの実施を検討。

解決に向けた具体策と成果

将来を担う地域の学生に「働くとは」を理解してもらう機会として職業体験を実施しました。仕事の楽しさや働く魅力を伝えることで、学生の職業選択の視野拡大に寄与。

取組による定量的な効果

2024年度：2日間実施、8名参加（男：8名）

2023年度：2日間実施、7名参加（男：5名、女：2名）

取組のポイント

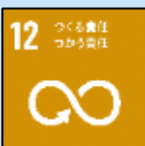
仕事内容を教える機会を通じ、自身の業務の重要性を再認識するとともに、社員のモチベーション向上にも繋がった。

屋上のデッドスペースを有効活用して電力自給率UP!（宮本土木株式会社）

取組の概要

2015年、営業所の屋上に**太陽光パネル**を設置。
2024年9月、使用電力を再生可能エネルギーへ切り替え、本社、資材置場を含む、全施設で**再エネ化**を実現。
さらに、2025年8月には太陽光パネルの増設を実施し、年間電力自給率を約20%向上させました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

建設業界は多くのエネルギーを消費するため、**環境負荷の低減**が重要な課題となっています。それらの課題を解決するための「**柱**」として太陽光発電の活用を始めました。設置後もモニタリングを行い、より効率的な自家消費型発電の実現に向け歩みを進めています。

解決に向けた具体策と成果

毎月の電力量を「**購入電力**」と「**自家発電**」に分けて記録し、使用状況を継続的に把握。
現実的かつ達成可能な自給率(%)を策定。

取組による定量的な効果

2024年9月、使用電力のCO₂排出量「ゼロ」を達成。
増設後、自家発電量約142kWh増加(2024、2025年8月を比較)

取組のポイント

太陽光パネル設置の他に電力量を「**見える化**」し、全従業員へ周知・共有を行いました。

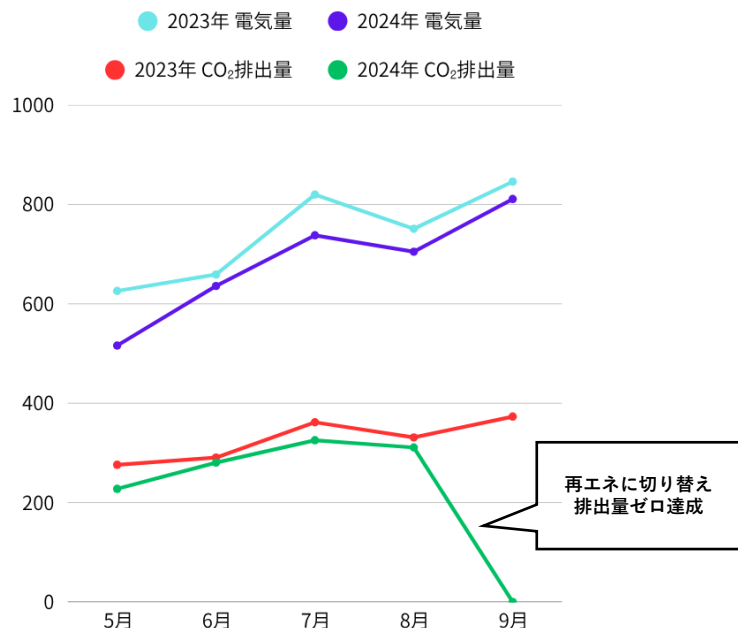
すべての従業員で取り組んだ脱炭素活動（(株)ティー・エム・サービス）

取組の概要

2024年9月、使用電力を**100%再生可能エネルギー**に切り替える。また、従業員の**節電意識向上**を目的として、声掛けや目に入りやすい場所に掲示物を設置し、節電行動を習慣化できるよう工夫した。

これらの取り組みを**継続的**に行い、エネルギー使用量の削減に努めている。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

建設業界は多くのエネルギーを消費するため、**環境負荷の低減**が重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえ、限りあるエネルギー資源を有効に活用し、環境への負担を軽減したいという思いから、脱炭素に向けた取り組みとして、**再エネ**利用を始めました。

解決に向けた具体策と成果

エネルギー使用量とCO₂排出量を月毎に掲示し、「**見える化**」を実施。また、節電を促す掲示物により従業員の節電意識が定着したことにより**継続**して行うことができた。

取組による定量的な効果

1年間で、約884kWh削減。(2023年と2024年を比較)
2024年9月、使用電力のCO₂排出量「**ゼロ**」を達成。

取組のポイント

こまめに電源をオフ、エアコンの設定温度を策定など全従業員で**協力**し節電活動を行いました。

食品配送から始めるSDGs

配送品質を落とさずにプラスチック37万枚・ドライアイス216tを削減(東京中央食品株式会社)

取組の概要

① プラスチック袋年間37万枚(約6t)の削減

配送コンテナに使用していたビニール袋をお客様の協力を得て全量廃止。強アルカリ電解水による洗浄で衛生面を担保。

② 配送時の保冷用のドライアイス(年間使用量216t)を全廃

保冷方法をドライアイスから、使い回し可能な高機能保冷剤に変更し、配送品質を上げつつ自社排出のGHG削減を実現。

取組を始めた動機・課題

- 当社は病院・高齢者施設・保育園等のお客様に毎日約100台の車で「食」をご提供する1954年創業の総合食品卸です。
- 衛生的な配送の為にプラスチック袋、保冷の為にドライアイスを創業以来当たり前のように使用してきましたが、その環境負荷の大きさに気づき、配送品質は落とさずにSDGsに資する新たな手法の構築に向け、試行錯誤を繰り返しました。

該当する
SDGs目標
(3つまで)

12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を

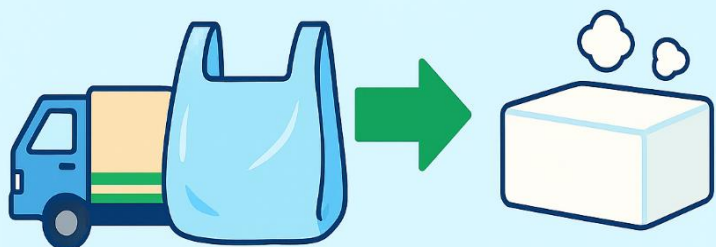


17 パートナリシップで
目標を達成しよう



37万枚の
プラスチック袋

216tの
ドライアイス(CO₂)



東京中央食品(株) × KANAGAWA
SDGs



1年間で削減しました

解決に向けた具体策と成果

- プラ袋廃止後も衛生的な配送を行う為、自社工場で生成する安心・安全な強アルカリ電解水での洗浄を取り入れました。
- ドライアイス以上の効果の保冷剤を発見。食品冷凍庫で凍結させる流れを構築し、追加電力等も発生していません。

取組による定量的な効果

- プラスチック袋37万枚(約6t)、ドライアイス216t(※)の削減
- ※杉の木およそ15,429本分の二酸化炭素年間吸収量に相当

取組のポイント

- 自社の今までの当たり前に疑問の目を向けてカイゼンする
- SDGsは「品質低下」や「我慢」と必ずしもイコールではない

中小企業へのSDGs 経営導入支援による実践的な伴走支援モデルの確立 (神奈川県中小企業診断協会・公益推進部・個社支援チーム)

取組の概要

SDGs経営を導入したい中小企業に対して、個社支援（伴走型支援）を実施し、県パートナー登録からサステナビリティレポート作成、さらなる実践まで個社が抱える様々な段階での支援を提供しています。2024年8月から2025年6月までの活動で、3社の個社支援を完了し、具体的な成果を創出しました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

かながわSDGsパートナー企業の多くが「SDGsに取り組みたいが何から始めればよいかわからない」「具体的な取組方法が分からない」という様々な課題を抱えていることが気が付きました。座学セミナーだけでは実践につながらないと考え、実際に伴走支援する体制を構築してきました。

解決に向けた具体策と成果

- ①D社（県パートナー登録実現）
- ②Y社（サステナビリティレポート完成等）
- ③個社支援の実施：A社（HP更新・活動発信強化）

取組による定量的な効果

- ①個社支援実績：3社完了（D社・Y社・A社）
- ②県パートナー登録実現：1社（D社）

取組のポイント

具体的書類作成、HP更新、KPI設定まで並走し、SDGs経営実践の支援体制確立。企業実情に合う実践的支援。

中小企業における業種別省エネ汎用モデル構築による経済的価値と環境的価値の向上(神奈川県中小企業診断協会・公益推進部・環境関連チーム)

取組の概要

我々は、かながわSDGsパートナー企業向けに電力とCO2削減による脱炭素及び省エネ対策の具体的な提案を行い、経済的価値と環境的価値の向上の両立を目指します。また、神奈川県の施策を踏まえながら製造業と建設業を中心に汎用的なモデルを構築し、様々なパートナー企業の企業価値向上に貢献します。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

かながわSDGsパートナー企業500社を調査した結果、約6割の企業が環境対策に取り組みながらも、中小企業白書(2025年)によると「収益への短期的な効果が見えにくい」「取引先からの要請増加」「社内リソースの不足」等が課題とされています。

解決に向けた具体策と成果

電気代削減、効率化、品質向上などの経済的メリットを前面に出し、段階的な導入ステップ(3年計画)を示し、初年度から実行可能な施策を提案する。

取組による定量的な効果

- エネルギー消費原単位の低減(3年間の平均)
- 電気需要最適化評価原単位の低減など)

取組のポイント

経営者が理解しやすい具体的な費用対効果を示すことが取組のポイント。

人を大切にするSDGs経営をサポートします！！

(神奈川県中小企業診断協会・公益推進部・人社会関連チーム)

取組の概要

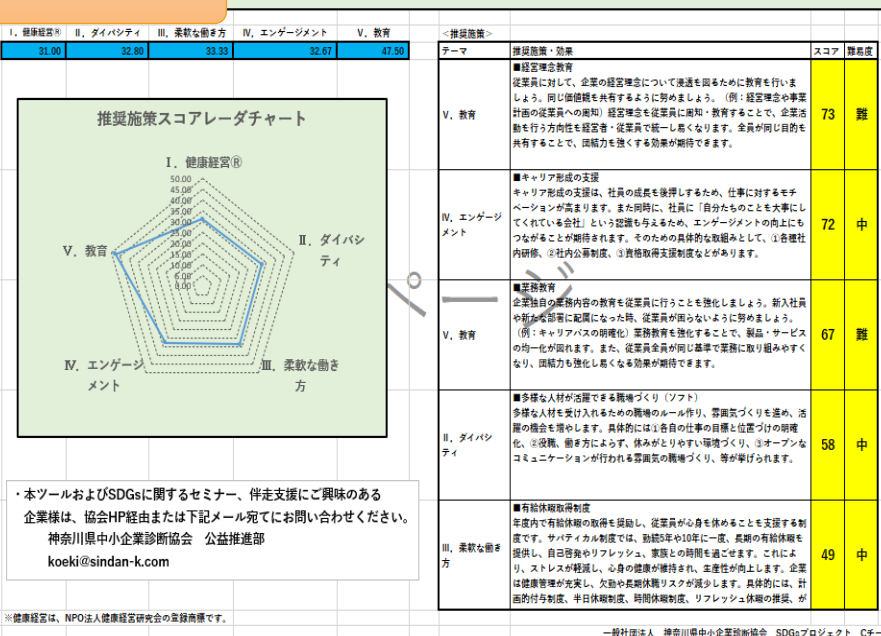
中小企業が取り組むSDGs経営について、「**ダイバーシティ**」「**教育**」「**健康経営**」「**エンゲージメント**」「**柔軟な働きかた**」といった**5つの視点**から**人・組織・社会**について分析するツールを提供しています。分析結果をもとに、**様々な経験を保有する中小企業診断士が貴社を強くするSDGs経営をサポートします。**

該当するSDGs目標 (3つまで)



ツールイメージ

【人を大切にするSDGs経営 推奨施策】



取組を始めた動機・課題

中小企業は、経営資源の不足に直面していますが、**人・組織・社会について自社が大切にすることを特定して活動している企業は持続的な成長が見られます。****事業とSDGsを結び付けること、中小企業の人を強くし、DX化を後押しして、元気な中小企業を増やしたい**という想いで取り組んでいます。

解決に向けた具体策と成果

アンケート、インタビューを通じた事例研究、個社支援、SDGsセミナー等での講演を行います。また、活動から得られた情報をパートナー会、セミナー等で公表します。

取組による定量的な効果

昨年度はテクニカルショウ横浜でのセミナーや、SDGsの好事例を冊子にまとめ、パートナー会で配布しました。

取組のポイント

分析だけではなく**具体的な推奨施策の提案や個社支援**へとつなげ、**中小企業の皆さんを後押し**します。